

株式会社 バドインターナショナル

●代表者／代表取締役社長 森田 穉生 ●創業／1992年3月
●所在地／東京都渋谷区恵比寿4-20-3 ●URL／www.bud-international.co.jp

生産性が上がり 精度も上がった 短納期へ柔軟に対応



須藤部長



尾形係長

全国に9拠点、海外に4拠点を展開し、デザインおよびDTP制作やシステム開発などを行う(株)バドインターナショナルは、社員数国内外グループ合わせて700人を超える人員を擁している。同社は、印刷業務は行っていないが全国各地の印刷会社と取引しており、これら協力会社に安定したPDFデータを渡すために富士フィルムグローバルグラフィックシステムのワークフローRIP「XMF Complete」を5年前に導入した。

同社は全国規模の仕事が多く、同社が完全PDFデータを作成することで、どこの印刷会社で印刷しても100%同じ結果を得ることができると判断した。「当

社は月に7000ページを制作している。大量のDTPデータをPDFに一括変換する仕組みが必要だったが、それをクリアするにはワークフロー機能を搭載したセンターRIPシステムが不可欠だった。『XMF Complete』導入後は、数百人の制作オペレータがXMFにアクセスしてPDFを生成しており、当社が求めるPDF運用が実現できている」と同社情報技術開発部部長の須藤一久氏は導入の経緯を話す。

「XMF Complete」を導入し、制作データをFinished PDFに変換している同社だが、その効果は「安定して高品質PDFが作成できるだけでなく、生産性が20%以上高くなったという。とくに画像



100人以上のオペレーターが本社にいる

や文字の多い折込チラシの処理スピードが格段に上がった。演算エラーがなくなり、精度が上がったことから制作進行が止まることもなくなった」と情報技術開発部デジタルプリプレス課係長の尾形慎哉氏は導入の効果を語る。また、「XMF Complete」で Finished PDFを生成することで、各拠点に設備しているプルーフの「プリモジェット」との連携も良くなった。主要拠点と本社が同じ品質のプルーフが出力できることで、色品質に関するトラブルもなくなり、お客様からの信頼もあがったという。

また、生産性が上がったことにより、社員の残業が減った。さらに生産性アップで、より短納期対応が柔軟に行えるようになった。これにより、日々の業務に忙殺されてできなかった、自動処理を目的にした新たなフローの構築や開発への時間を多く取ることができるようになったという。

また、従来はデザイン制作までしか関心のなかったDTPオペレータが、PDF作成業務までを包括することにより『印刷工程で問題のないデータ作り』を意識しながら制作するようになり、社員の意識変化にも役立っていると同社では考えているようだ。



このように、「XMF Complete」で効率化を推し

進めている同社だが、今後は制作フロー自動化と、データ一元化への取り組みをさらに強化したいと考えている。

お客様の要求に柔軟に応えるためには、大量ページを短時間で処理する仕組が重要であるが、そのために自動化への取り組みは必須であると考えているようだ。

また、現在同社はDTP制作が8~9割を占めているが、企画制作段階から請け負っているため、コンテンツを沢山所有している。コンテンツデータを一元化することで、様々な媒体に利用できると考えている。特にeBookやWebへの展開に力を入れていくつもりだ。また、Web用データを作成する上でも、XMFは役立っているという。

「当社の豊富なコンテンツをDTP制作以外へも利用したいというニーズが増えている。お客様の要求をデザインで表現できる当社の強みをもってすれば、DTP制作だけでなく、様々な媒体への展開にも応えていける。この業界はミスしないのが当たり前とされている。だからこそ信頼できるRIPを導入した。これからは、スピードや品質だけでなくお客様の売りに繋がる新しいアイデア提案をし続けることが重要になる」と須藤部長は話してくれた。